



大野城市ふるさと文化財保存整備活用基本計画

株式会社アーバンデザインコンサルタント 棚町修一

本計画は、文化財を取り巻く共通の課題に正面から向き合い、文化財に関わる市民や民間団体、行政機関が連携しながらともに創る「連携による文化財を活かしたまちづくり」を目指し、3つの連携を提案した。
 ①行政から発信する文化財情報が市民にうまく伝わっていないことに着目し、行政と市民をつなぐ人材(パートナー)の育成・活用を柱とした「地域連携」、②文化財を行政区域の枠を越えて整備し、まちづくりに活かしていく「行政連携」、③情報化社会に対応し、情報受発信の拠点となる情報ステーションを設け、市民や関係機関との「情報連携」を提案した。

作品概要

対象地：福岡県大野城市全域
 発注：福岡県大野城市 教育委員会 ふるさと文化財課
 事業目的：未知のものも含めて、大野城市に存するすべての文化財について、今後の調査・保存・活用・整備をどのように進めるかの計画を策定することを目的とした。
 事業体制：一般市民、小学生・中学生を対象にしたアンケートや市内で活動する5団体にヒヤリングを踏まえ、大野城市教育委員会のもとで保存整備活用基本計画を策定した。
 事業期間：平成19年9月10日～平成21年3月30日
 事業規模：大野城市全域

作品評

本作品は、市の教育委員会から発注された、市全域を対象とした文化財の保存と活用の基本的な方向性をとりまとめたものである。
 「連携による文化財を活かしたまちづくり」を理念とし、「文化財を知る、守る、活かす」を基本方針の柱として、それぞれの柱ごとに計画の目標や個別計画、推進方策等を簡潔に取りまとめであり、現況調査や課題の抽出に当たっては、市民へのアンケート調査やNPO等の民間団体へのヒヤリング等を行い、市民の意向を反映させた計画となっていることが特徴であり、文化財とまちづくりという新たなテーマに対して「連携」というキーワードを用いて、わかりやすく体系的にとりまとめたことも大きな特徴といえる。
 惜しむらくは、「文化財を活かす」という柱において、まちづくりにつながる具体的な提案がプラスされると、さらに充実した計画になったものと考えられる。
 とはいえ、限られた委託業務費に対しては十分な内容であり、とくに、基本理念から個別計画までをスケッチを多用して市民にもわかりやすく、ていねいに表現されている点などは高く評価された。

連携による文化財を活かしたまちづくり

地域連携	行政連携	情報連携
市民や民間団体と行政との連携	文化財に関わる関係機関との連携	各種情報媒体を通じての連携

